

80周年をもっと楽しむ! イベント・募集・体験が盛りだくさん

里海・里山フェスタで 伊勢志摩の大自然を満喫!



令和8年3月14日(土)、「里海里山体験フェスタ〜ふれる・楽しむ・未来へつなぐ〜」が伊勢志摩国立公園内の8箇所で開催されました。そのうち英虞湾周辺では、志摩自然学校や地域のカヤック事業者が連携し特別なプログラムを実施。伊勢志摩バリアフリーツアーセンターによるサポート体制も整え、誰もが安心・安全に楽しめる場となりました。また、他の各会場の参加者からも非日常的な体験に大満足の声が寄せられました。

80周年本番の今年度は、11月14日(土)に開催を予定しており、今回、運営を支えたガイド達は、この経験をもとに「絶好のロケーションと伊勢志摩らしさが詰まったイベントの魅力」を風化させることなく、今後の事業継続へ強い意欲を示しています。

次回も未来を担う子どもたちがワクワクしながら里海里山の自然や文化を体験するプログラムを提供します。ご期待ください。



伊勢志摩国立公園賞(旧:石原円吉賞)の候補者を募集!

1 受賞候補者

候補者は、本人以外からの推薦により募集します。

●対象

国立公園指定に奔走した石原円吉翁のように、伊勢志摩国立公園の自然や文化を守り続ける取り組み(地域文化の継承や適正な活用の推進、動植物の保全活動など)に携わっている個人や団体。(若干名)

2 応募方法・締切

伊勢志摩国立公園協会のホームページから応募用紙がダウンロードできます。必要事項を記載の上、メールアドレス ise-shima@ise-shima.or.jp に送信してください。

●応募締切: 令和8年9月4日(金)

お問い合わせは、伊勢志摩国立公園協会
TEL 0599-25-2358 まで。

3 選考方法

候補者の審査と受賞者の選考は、伊勢志摩国立公園協会が設置する選考委員会により行います。

4 選考結果の発表・表彰式

●発表: 11月上旬

●表彰式: 令和8年11月20日(金)
阿児アリーナにて。

伊勢志摩国立公園指定80周年記念式典

「つなごう!自然と人の物語」 伊勢志摩の魅力を未来へつなぐ特別なひとときを、ぜひ会場でご体感ください。

日時 **令和8年11月20日(金)**
13:30 開場 14:00 開会

会場 志摩市阿児アリーナ ペイホール

主な内容 ・伊勢志摩国立公園表彰式
・ふるさと探求!国立公園教室プレゼンテーション
・3市1町からの現地レポート(ライブ中継)
・宇治山田高校合唱部 OB:プラチナ2000による合唱

このチラシに関するお問い合わせ先

(一財)伊勢志摩国立公園協会
〒517-0011 三重県鳥羽市鳥羽1丁目2383-51
TEL & FAX 0599-25-2358
ホームページ <https://www.ise-shima.or.jp/>
メール ise-shima@ise-shima.or.jp



ホームページ



メール

世界水準のナショナルパークを目指す

伊勢志摩国立公園 夏の便り



令和8年7月

Vol.17

発行/(一財)伊勢志摩国立公園協会、三重県 編集協力/(株)アイブレーション

伊勢志摩国立公園指定80周年記念事業

「伊勢志摩TSUTAE隊」が“地域の宝”を子どもたちへ

伊勢志摩TSUTAE隊(皇學館大学CLL活動)が、子どもたちに伊勢志摩の魅力を伝えるために実施した取り組みを紹介します。令和7年度には伊勢志摩管内の小学生4,000人に配布する学習アイテム(すごろくを使ったパンフレットと下敷き)を制作しました。

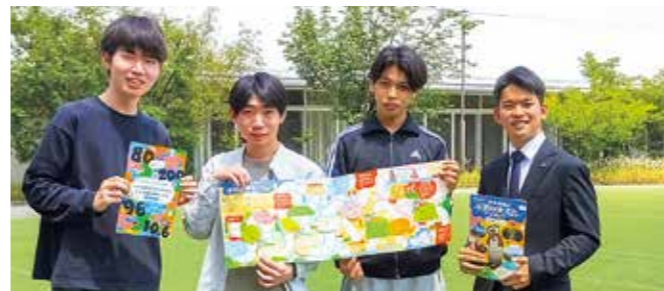
現地調査

令和7年度の現地調査では、伊勢志摩地域の産業や文化について調査しました。夏には神島や金剛證寺などを訪れ、伊勢志摩の歴史や海女信仰について学んだほか、灯台の調査を通じて海上交通の要衝としての役割も理解しました。冬には、きんこ芋の製造やアコヤガイの貝柱加工などの産業を調査しました。伝統産業の衰退や真珠養殖の拠点移転の現状に衝撃を受けましたが、実地体験を通して伊勢志摩の文化潮流や産業の盛衰について理解を深めました。



すごろく制作

現地調査で得た学びや体験を生かし、伊勢志摩すごろくを制作しました。土台づくりから内容構成、デザイン案の検討までメンバーで意見を出し合い主体的に取り組みました。また、伊勢市・鳥羽市・志摩市・南伊勢町の4地域を分担し、現地での体験を基にクイズやマスの内容を作成しました。制作中はSNSで意見交換を重ねながら内容を整理し、少人数で苦勞もありましたが、伊勢志摩国立公園協会の方々からの力添えもあり無事にすごろくを完成させることができました。



「伊勢まつり」での活動

完成したすごろくは10月の「伊勢まつり」に出展し多くの方に体験していただきました。参加者の楽しく遊ぶ姿や、年配の方から「懐かしい」といった声をいただき、すごろくが世代を超えて親しまれるコミュニケーションツールであることを再認識しました。運営や内容面での課題も見つけましたが、それらは後の活動につながる貴重な経験となりました。また、「この辺りに住んでいないので分からない」という意見もあり、伊勢志摩地域の認知度向上が重要な課題であることを実感しました。



鳥羽小学校訪問の振り返り

「伊勢まつり」で得た改善点や課題を踏まえ、令和8年5月の鳥羽小学校訪問に向けた準備を進めました。楽しみながら伊勢志摩について知ってもらうことを目標に、音当てクイズや図を用いた説明など、多くの工夫を行いました。「音当てクイズが盛り上がりませんでした」という不安もありましたが、当日は子どもたちが明るく反応し、興味を持ちながら積極的に参加する姿が見られ、自信を持って取り組むことができたことに大きな喜びを感じました。また、掲げた活動目標も、すごろくの内容を通じて一定程度達成できたと考えています。今回の活動を通して、地域の魅力は「何を伝えるか」だけでなく、「どのように伝えるか」も重要であることを実感しました。



帆船日本丸、伊勢志摩へ来航



(独立行政法人)海技教育機構

子どもたちの目が輝いた特別な時間



歓迎式典

伊勢志摩国立公園指定80周年を記念し、独立行政法人 海技教育機構の練習帆船「日本丸」が鳥羽港に来航しました。これを歓迎する式典が4月26日、鳥羽マリンターミナルで開催され、日本丸の船長・機関長をはじめ、一見三重県知事や記念事業実行委員会の山本会長ら関係者約50名が出席しました。式典では花束贈呈のほか、「鳥羽市民コーラスはまおぎ」の合唱や「鳥羽物語倶楽部」の

踊りが披露され、会場は歓迎ムードに包まれました。また、日本丸の海上安全を祈念し船絵馬が贈られ、記念事業にふさわしい華やかな催しとなりました。



体験乗船会

式典後に開催された体験乗船会には、式典参加者と県内から応募した小中学生約100名が参加し、力を合わせロープを引き帆を広げる「展帆体験」や「舵



輪体験」、「機関室体験」など、帆船ならではの貴重な体験をしました。子どもたちは初めて見る日本丸に目を輝かせながら、普段は触れる機会の少ない帆船の魅力を楽しみました。

また、伊勢志摩国立公園ならではの海洋文化や豊かな自然、歴史に触れる機会にもなり、自然環境への関心を育むとともに、次世代の環境保全意識の醸成につながる有意義な事業となりました。



船絵馬奉納

紺碧の海を勇壮に航海する日本丸を描いたのは、志摩市立磯部中学校3年生の西井うららさんです。うららさんの思いが込められた絵馬は、式典翌日の4月27日、日本丸の航海の安全を祈願して寺島船長ほか日本丸関係者から青峯山正福寺へ奉納されました。奉納の後、鳥羽市教育委員会学芸員の野村氏から、正福寺の歴史や伊勢志摩の海域を航行する各地の船乗りからの

信仰について説明をうけながら境内を巡りました。海上交通の安全を祈る伝統文化に触れることで、地域文化への理解を深める貴重なひと時となりました。



“ 想いを絵に込めて ”

西井うららさんが語る船絵馬の物語



磯部中学校3年
西井 うらら さん

船絵馬製作を決断させたもの ～歓迎式典で伝えたメッセージから～

昨年、志摩市で開催された全国豊かな海づくり大会の絵画コンクールの部で賞を頂いた事がきっかけで、今回、船絵馬の製作の依頼を頂きました。絵を描くことは大好きですが、油絵具を使うのも初めてで木に描くのも初めてなのでとても不安でした。ただ、亡き祖父が油絵を描いていて、その祖父の絵が偶然にも青峯山正福寺に納められていると聞きました。なので自分の絵も収められたら嬉しいと思い油絵のことなどを調べながら描いてみました。最近、船の事故や戦闘による船のニュースをよく見ます。私の従姉妹も原油を運ぶ船で操舵士をしているので心配になります。大変なことも沢山ありますが、日本丸が今後安全に航海できるように願いを込めて船絵馬を製作しました。



緊張と嬉しさが交錯する中で～日本丸船長に思いを込めて～

いよいよその時が来ました。4月26日、日本丸が本当に鳥羽湾に姿を現していました。歓迎セレモニーで私が製作した船絵馬を日本丸の寺島船長さんに贈呈させて頂く日です。船絵馬を描くのに時間はかかりましたが、自分なりに頑張り、一目見て「日本丸」と分かるように描いてみました。描き終えてからは見ていただく方々の反応がとても気になっていました。式典には思っていた以上にたくさんの来賓の方がいたので、自分の思いを話すときなども緊張しましたが、でも皆さんが絵馬を見てくれた時、少し歓声が

上がり写真もいっぱい撮ってくれ、恥ずかしい気持ちと共に「描いてよかった」という気持ちでいっぱいになりました。

式典の後、日本丸に乗船させて頂きました。実物は写真で見た日本丸より遥かに素敵でした。内装の階段やドアなどもとても素敵でした。船内を色々説明してもらい、日本丸での生活や歴史など少し知る事ができました。この船で同年代の人たちが大海原を航海するのかもしれないと思うと、少しワクワクとしたのと同時に船で生活している皆さんは凄いなって思いました。

